

## 序

京都大学農学部附属演習林上賀茂試験地の試験・研究の主要な目標の一つは外国産樹種の導入、育成であり、現在まで種子交換によって約4,100余種の植物が導入された。ことに外国産マツについては約60種が立派な研究材料として育っている。これらは今後、生理、生態、育種などに関する試験、研究に利用されるが、主要なものは林分として育成される段階にいたった。これを機会に、これまで克明に調査、測定された貴重な記録を「京都大学上賀茂試験地に導入された外国樹種とその生育状況」と題して公刊することは、関連研究者に大いに役立つものと期待される。

本報告は膨大な資料収集にたゆまない努力をはらわれた上賀茂試験地の汗の結晶であり、その研究指導にあられた試験地主任伊佐義朗講師の業績は高く評価されるであろう。来る3月末日で停年、退官される伊佐講師の長年のご尽力に対して深く感謝する次第である。

昭和45年1月8日

演習林教授 佐野 宗一